

① 件 名
石巻市生成 A I 利用ガイドラインの本格運用について
② 施策等を必要とする背景及び目的（理由）
【背景】 C h a t G P T に代表される生成 A I は、多くの人々の日常生活のみならず、地方自治体でも活用され始めており一定の成果が報告されている。本市においても、業務上、安全に利用できる環境を整えるとともに、適切な利用を図るための必要な事項を定めた石巻市生成 A I 利用ガイドライン（以下「利用ガイドライン」という。）を策定し、令和 6 年 1 1 月 1 日から試行運用を開始した。 その後、試行運用を通じ、生成 A I の有効性や留意点の把握と、安全かつ効果的な活用に向けた検討を進めてきた。 【目的】 試行運用を経て本格運用に移行し、全庁的に適切な活用を推進することで、職員の業務効率化や事務負担の軽減を図るとともに、市民サービスの向上につなげる。
③ 根拠法令及び総合計画又は個別計画との整合性
【根拠法令】 ・自治体 D X 推進計画【第 3.0 版】（令和 6 年 4 月 2 4 日） ・石巻市情報セキュリティポリシー（令和 5 年石巻市訓令第 2 1 号） 【個別計画との整合性】 石巻市 D X 推進計画 B 「効率的・効果的な行財政運営」実現のための取組事項 ③ デジタル環境の充実 生成 A I 導入に向けた検討
④ 提案に至るまでの経過（市民参加の有無とその内容を含む。）
令和 6 年 1 0 月 第 3 回石巻市 D X 推進本部において利用ガイドラインの策定について審議 令和 6 年 1 1 月 利用ガイドラインの試行運用開始
⑤ 主な内容
1 試行期間と対象職員 ・試行期間 令和 6 年 1 1 月～令和 7 年 3 月 ・対象職員 一般職員（労務職を除く。） 2 試行利用に関する職員アンケート結果（実施期間 令和 7 年 2 月 2 6 日～3 月 1 1 日） ・職員対象のアンケートを実施したところ、生成 A I を業務に利用した職員は回答者の 9.5 % にとどまった。利用しなかった理由は、「利用できることに気づけなかった」が半数近くとなっており、今回のアンケートで知った職員が多いほか、「使い始める方法が分からなかった」、「業務のどの場面で使えるか分からなかった」という理由をあげた回答者が多かった。 ・利用した職員の 9 1.2 % からは、利用効果があるとの回答を得ており、得られた効果として「業務の効率化・時短」が 7 8.8 % ともっとも多く、次いで「情報整理・収集の向上」、「文

書・資料の質の向上」が50%台、「新しい視点や発想の獲得」、「心理的負担の軽減」が30%台で多い回答結果となった。

3 本格運用移行に当たっての活用推進及び利用制限

(1) 活用推進

職員アンケートの結果等から、次のとおり活用推進を図る。

- ・利用方法の再周知
- ・具体的な活用事例の周知
- ・利用に関する研修の実施検討

(2) 利用制限

Deep Seek社による生成AIサービスについては、「Deep Seek等の生成AIの業務利用に関する注意喚起（事務連絡）」（令和7年2月6日デジタル社会推進会議幹事会事務局）が発出されており、政府機関等においては、サービス利用によって生じるリスクを十分認識の上、内閣サイバーセキュリティセンター及びデジタル庁に助言を求めた上で適切に判断するよう周知している。リスクを考慮し業務に利用しないことを決定した地方公共団体も出てきており、このような動きを踏まえ、本市も同社の生成AIサービスを業務で利用しないよう周知を行う。

⑥ 実施した場合の影響・効果（財源措置及び複数年のコスト計算を含む。）

【影響・効果】

多くの職員が生成AIを業務において活用することで、組織全体の業務効率化、事務負担の軽減等が図られる。

⑦ 他の自治体の政策との比較検討

宮城県においては、令和6年4月から本格運用開始、仙台市においては、令和5年6月から運用に関するガイドを作成し、庁内へ周知

⑧ 今後の予定及び施行予定年月日

令和7年4月 本格運用開始
活用事例（職員アンケート結果含む）、利用制限等をグループウェアで周知

⑨ その他